

日本簿記学会ニュース

No. 45:7 / 2008

《部会の経過報告》

第24回関西部会は平成20年5月31日(土)に滋賀大学(準備委員長:山田康裕氏)にて開催されました。詳しい内容は本紙部会記をご覧ください。第24回関東部会は平成20年6月28日(土)に東京理科大学神楽坂キャンパス(準備委員長:原田昇氏)にて開催されました。詳細は次号にてお知らせする予定です。

《大会のご案内》

第24回全国大会(開催校:香川大学)の詳細が下記の通りに決定いたしましたので、お知らせいたします。

開催日	8月28日(木)から8月30日(土)	小南裕之氏(北海道農業共同組合中央会)
場所	高松商工会議所(高松市)	坂本孝司氏(税理士法人坂本&パートナー)
統一論題	「複式簿記の機能と本質—業種・規模のちがいで多角的に考える—」	河崎照行氏(甲南大学)
第1日(8月28日)	選挙管理委員会 学会賞審査委員会 理事会	懇親会 18時00分～19時30分
第2日(8月29日)	参加者受付 11時30分～17時40分 会員総会 12時30分～13時30分 役員選挙 13時30分～17時30分 学会賞受賞報告 13時35分～13時55分 片岡泰彦氏(大東文化大学)	第3日(8月30日) 参加者受付 9時10分～16時00分 自由論題報告 9時30分～12時00分 新理事会 12時10分～12時50分 記念講演 13時00分～13時50分 興津裕康氏(近畿大学)
研究部会報告 14時00分～15時10分		統一論題討論 14時00分～16時00分
統一論題報告 15時30分～17時40分		高校簿記教育懇談会 16時00分～18時00分
座長 原田満範氏(松山大学)		
報告者 大室健治氏(中央農業総合研究センター)		

《平成20・21年度研究部会の募集》

平成20・21年度の簿記理論研究部会、簿記実務研究部会を下記の通り募集いたします。申し出は、研究テーマ・メンバーを明記の上、事務局宛にお願いいたします。

- (1) 研究期間は第24回全国大会(平成20年)会員総会承認から2年です。
- (2) 研究成果の報告は、1年経過後の第25回全国大会(平成21年)における中間報告および第26回全国大会(平成22年)における最終報告の2回となります。
- (3) 研究成果につきましては冊子を作成いたします。
- (4) 研究部会費は1部会200,000円(年間)です。
- (5) 研究部会メンバーは当学会会員とします。
- (6) 研究部会メンバーの人数に制限はありません。

日本簿記学会第24回関西部会記

準備委員長 山田 康裕
滋賀大学

日本簿記学会第24回関西部会が、平成20年5月31日(土)に滋賀大学経済学部で開催された。参加者は93名であった。午前中には高須教夫氏(兵庫県立大学)の司会のもと、林繁一氏(林会計事務所)による「電子帳簿に求められる新しい簿記手続」、および田口聡志氏(同志社大学)・梶原太一氏(同志社大学大学院)による「複式簿記の経済分析」という2つの報告がおこなわれた。

午後からは、「会計基準のコンバージェンスと複式簿記～簿記の視点から会計の動向を読み解く～」というテーマで、松本敏史氏(同志社大学)の司会のもと、4つの報告がおこなわれた。

第1報告は、浦崎直浩氏(近畿大学)による「公正価値会計における損益認識と簿記の意義」である。氏は、IASBとFASBの収益認識プロジェクトを素材として公正価値会計の展開の構図を明らかにし、簿記の意義を検討された。結論として、経済活動がいかに変化しようと、経済活動や環境変化が経済的ポラリティを有する限り、複式簿記はその経済的実質を写像する有用な記録機能を有すると主張された。

第2報告は、草野真樹氏(大阪経済大学)による「金融商品の公正価値会計と複式簿記—ローン・コミットメントを中心として—」である。氏は、金融商品の公正価値会計を素材として複式簿記への影響を検討された。結論として、公正価値会計では確定的な現金収支にもとづいて取引が記録されるとは限らず継続記録の重要性が低下するが、フロー情報によって投資家の意思決定に有用な情報を提供するためには、確定的な現金収支にもとづく取引の継続記録が必要であると主張された。

第3報告は、田代樹彦氏(名城大学)による「公正価値測定と複式簿記～受託責任の観点から踏まえて～」である。氏は、受託責任の観点から公正価値測定と複式簿記の関係を検討された。結論として、会計責任の観点からはオンバランス化は経営者の責任に含まれることになるため公正価値情報の提供と公正価値測定(オンバランス化)は無差別ではなく、

複式簿記の記録機能を拡張しつつ会計責任のための記録と情報提供のための記録とにわけられることを主張された。

第4報告は、岩崎勇氏(九州大学)による「公正価値会計モデルと複式簿記の必要性—会計基準のコンバージェンスとの関連において—」である。氏は、会計基準のコンバージェンスに伴って、複式簿記の必要性が変わるか、複式簿記の機能・形態に変化はあるか、簿記・会計手続面から複式簿記に与える影響は何かについて検討された。結論として、会計理論的には大きな影響を及ぼすが、複式簿記の基本原理(機能)には影響を及ぼさないと主張された。

これら対して、足立典照氏(元大阪学院短期大学)、齋野純子氏(甲南大学)、柴健次氏(関西大学)、田口聡志氏(同志社大学)、村橋剛史氏(朝日大学)、藤井秀樹氏(京都大学)から質問がよせられ、公正価値会計の意義、会計目的と利益概念の関係、収益認識における投資回収額による測定などについて活発な討議がなされた。最後に座長の松本氏より、お釈迦様の手のひらで踊る悟空の話を引き合いにだし、数々の会計現象を仕訳を通して考えていること自体が複式簿記の必要性・普遍性を示しているとの総括がなされた。



ルカ・パチョーリとルネサンス期の人々

大東文化大学 片岡泰彦

かつて、私はヴェネツィアのデュデッカ島の岸辺に立ったことがあった。このデュデッカ島は、パチョーリが3人の息子の家庭教師となったロンピアージ家の住んでいた記念すべき場所である。前方に広がる運河の向こう岸には、サンタ・マリア・デッラ・サルテ教会、サン・マルコ広場にそびえるカンパニーレ（鐘楼）、右側にはサン・ジョルジョ・マッジョーレ教会等の美しい姿が眺められた。しかし運河の水は、海に繋がっているとは故、歴史がその堆積を許した濁りの度合いは決して心地良くはなかった。しかし突如、雲を押しのけた夕陽が、水に反射し出すや、その景色は一変した。運河の水は繁然と輝き、行きかう古ぼけた船も美しい絵の一辺と化した。これこそアドリア海の女王の名にふさわしい水の都の出現であった。私は、まさにこの時、幻想の世界の中で、ヴェネツィアを中心にイタリアで活躍したパチョーリと彼をとりまくルネサンス期の人々に思いを馳せた。

ルカ・パチョーリは、世界最初の複式簿記文献「スムマ」を、1494年にヴェネツィアで出版した数学者が故に、「近代会計学の父」として会計史上輝かしい栄誉を有している。パチョーリは、中央イタリアのボルゴ・サンセポルクロで生まれた。少年時代には、サンセポルクロ出身の有名な画家、数学者そして線遠近法の完成者であるピエロ・デラ・フランチェスカから、数学、絵画の教えを受けた。

その後、パチョーリは、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ミラノ、ペルージア、ナポリ、ボローニア等の諸都市を遍歴する。これらの都市で、パチョーリは、ルネサンス期の多くの有名な人々と知り合う。例えば、画家、哲学者そして建築家のレオン・バッティスタ・アルベルティ、ヴェネツィアが生んだ有名な画家ヤコポ・ベルリーニと彼の2人の息子達、ローマの著名な画家メロツォ・ダ・フォルリ、フィレンツェの画家サンドロ・ボッティチェルリ、万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチとレオナルドの師匠アンドレア・デル・ヴェロッキオ、ドイツ最

大の画家アルブレヒト・デューラー、ウルビーノのグイドバルド公、パチョーリが「デヴィナ」を献呈したフィレンツェの行政長官ピエロ・ソデリーニ、ローマ法王レオ10世、ミラノのロドヴィコ・イル・モロ等である。特に、レオナルドとはミラノのロドヴィコ・イル・モロの宮殿で親交を深めた。レオナルドは、パチョーリのため「デヴィナ」の図案を手伝い、パチョーリはピエロ・デラ・フランチェスカの遠近法をレオナルドに教えたと言われている。

私は、何度かパチョーリの足跡と複式簿記の起源を求めて、イタリアの各都市を訪れた。とくに、サンセポルクロへの訪問は7回を数えた。サンセポルクロでは、親友である同市の図書館長兼美術館長のフランチェスコ・コマンドッチ氏に、レオナルドの絵で有名な「アンギアリの戦い」の古戦場を案内してもらったことがある。1503年、レオナルドは、フィレンツェのヴェッキオ宮殿の大広間を飾るため、「アンギアリの戦い」の創作を依頼された。しかしレオナルドはプレニウスの本で知った漆喰を用いる方法を採用した結果、完成できなかった。この失敗は、スフォルツァの銅像の未完そしてアルノ川の工事の計算違いとともに、ピエロ・ソデリーニそしてレオ10世等の鋭い批判の矢面に立たされた。有名な「最後の晩餐」にしても壁の湿気で崩れ始めたのである。大作についてはことごとく失敗したとするソデリーニの説も的を射ているかもしれない。

現在、「アンギアリの戦い」は、ルーベンスのみごとな模写によってのみしか、その姿を見ることができない。しかし今年（2008年）の4月、この「アンギアリの戦い」の絵が発見されたというビッグニュースが飛び込んできた。ベッキオ宮殿のジョルジョ・ヴァザーリの壁画の裏側に、この絵が隠されているというのである。ヴァザーリの壁画の天井に近い上部に、cerca trova（探せ、見つけよ）という小さな文字が書き込まれていたことがその発見のきっかけとなったという。もし本当ならば、世紀の一大発見となる。ヴァザーリと言え、画家よりもむしろ、彼の論述した「美術家列伝」（1550年）の方が有名である。ヴァザーリは、この本の中で、パチョーリは、ピエロ・デラ・フランチェスカの業績を剽窃した悪人であると扱き下ろしたのである。

万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチも会計学の

父ルカ・パチョーリも、一方では絶賛されながらも、他方では批判に晒されたのである。一部の批判を受けながらも、自分の信ずる道を生きた有名な優れたルネサンス期の先人達の足跡を辿るとき、我々は歴史が語る重要性の意味を知ることとなるのである。「何事もしない者は過ちをしない、しかし何の過ち

もしない者は学ぶことがない」というパチョーリの言葉が思い出される。

近い将来、私はヴェネツィアのデュデッカ島の岸辺に立って、パチョーリの残した業績と簿記の歴史の重要性を再考したいと思っている。

《日本簿記学会第24回全国大会における役員選挙について》

選挙管理委員会
委員長 中野常男

日本簿記学会第24回関西西部会（於：滋賀大学、平成20年5月31日）理事会、および第24回関東部会（於：東京理科大学、平成20年6月28日）理事会において、平成20年8月29日・30日に香川大学で開催される日本簿記学会第24回全国大会における役員選挙について検討が行われ、次の要領で選挙を行うことが決定された。

I 理事選挙について

- 1 理事の選挙は全国大会期間中の直接選挙により、平成20年8月29日（金）13時30分より17時30分まで、高松商工会議所で行う。
- 2 選挙権を有する会員は、平成20年8月29日現在、本学会会員である者（8月28日の理事会で会員として入会を認められたものを含む）である。会費を本年度を含めて2年以上滞納している者は、選挙権を有しないが、8月8日までに会費を納入すれば復権する。
- 3 本学会会長経験者および理事連続二期を務めた会員は、被選挙権を有しない（その氏名は投票所に掲示される）。
- 4 投票は、10名連記無記名式とする。10名に満たない投票は有効とするが、同一人を複数連記した投票はその全体を無効とする。また、姓だけの記入および不正確な氏名の記入は、その記入についてのみ無効とする。
- 5 退職等により、所属機関のない会員は、当該会員の申し出によって所属を決定する。ただし、名誉教授は、当該名誉教授の大学に所属する。
- 6 理事選挙の結果は、翌日に高松商工会議所にて公示する。

II 会長選挙について

- 1 新理事会は、平成20年8月30日（土）12時10分より高松商工会議所にて開催し、理事による単記無記名の投票によって会長選挙を行う。
- 2 会長選挙の結果は、当該新理事会の席上で発表し、新会長は副会長を指名し、当該理事会で報告する。
- 3 新会長および副会長の氏名は、新理事会終了後に高松商工会議所にて公示する。

以上

なお、会員の先生方には、日本簿記学会役員選挙内規を合わせてご覧ください。

編集後記

今年度8月の香川大学における全国大会時に役員選挙が行われ、幹事もその時に改選になります。色々ご不便をおかけしたこともあるかと存じますが、大変勉強になりました。森川会長の下での事務局体制もあとわずかですが、気を引き締めて作業を全う

したいと考えております。

（桑原・清水・原・菱山・渡辺）

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail boki@hakutou.co.jp